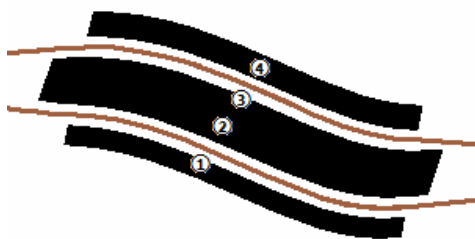


名鉄の不思議 名鉄名古屋駅

名鉄の中心駅は、「名鉄名古屋駅」である。この駅は、他の私鉄ターミナル駅のように大きな構造を持っていない。名古屋を中心に東西南北に発達した名鉄の大動脈の中心「名鉄名古屋駅」であるが、普通の地下駅で線路が上下一本づつしかないのである。待避線も追越線も引留線も全くない普通の途中駅の構造である。

現役時代に名古屋に出張されても、駅前に支社営業所があり、名鉄を利用されることは少なく、ナジミが少ないことと存じますが、この狭い駅の特徴を挙げてみると、

列車本数が多い。すべての列車が名鉄の



中心地で
ある名古

屋駅をめぐって集中してくるわけであるから列車本数が増えるのは当然ですが、時刻表をザッと観るだけで、昼間の閑散時で24本、ラッシュアワーには31本と東京山手線を上回る列車密度である。多分、日本一でしょう。



行き先方面が多い。名古屋を中心に北は岐阜まで、南は豊橋までしかも各支線も全て発着しているから全行先は20以上はあり、これに特急、急行、準急、通勤快速、普通が組み合わされているのでその複雑さは計りしれない。この対策として例えば、名古屋本線の列車の案内は列車種別、行先、発車時刻、乗車位置など全て「イエロー」に、準急以上の標示は「ブルー」に統一し、犬山那加方面の普通は「イエローグリーン」、準急以上は「グリーン」とし、津島尾西方面は「ムラサキ」のように全ての標示が色分け統一されている。

この二つに限っていうと、この目まぐるしい動きを毎日使いこなしている名古屋人に対して、駅でモタモタしていると「田舎もの」とすぐに判別されてしまうほどである。

解決策がないのか？ 今の地下駅を基準に考えると上方向はJRが、下

方向は地下鉄が、東方向は地下街が、西方向は近鉄がそれぞれ占めていて拡張の余地はないようで、すぐには解決できそうにないように素人には見え、鉄チャンなら終日見ている飽きることなく、鉄チャン仲間の話題をしばらくは提供しつづけることでしょう。

